



## 校長のひとり言

### ■「感動」をありがとう。

碧雲通信9月号の編集後記に「RIOオリンピックの熱い戦いに感動を覚えた人も多かったのではないか」という内容が記されていました。私もこの暑い夏から初秋にかけて熱気にあふれたスポーツの様子を観ることができました。観る者たちにエネルギーを放ち、勇気・元気・夢・感動を与えてくれた選手たちを誇らしく思います。

私は県内の競技スポーツの競技力向上と振興に関わる仕事を担当したことがあります。特に、中・高校生を中心とした選手強化に重点をおき、その年代での活躍を期待するとともに、その後の大学や企業等に所属し世界で活躍する選手を育成することを使命としていました。

終戦後の日本は中学・高校・大学が抱える部活動が中心となり競技スポーツが普及・発展しましたが、近年は社会体育（クラブ、教室など）が選手強化活動に加わるなど大きく変化するとともに飛躍的に競技力が向上し、ここ20年あまり様々な競技でプロ化が進み、ファンやサポーターといった応援者によって競技スポーツが支えられてきました。

これから2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた選手強化が進められますが、日本代表選手の活躍によりRIO以上の盛り上がりや夢と感動を与えてほしい。そして、その後の日本の競技スポーツの普及・発展に大きく寄与することを期待します。

### ◇RIOオリンピック・パラリンピック

本県出身の参加者を振り返ろう。テニス・錦織圭（松江市）、レスリング・渡利璃穂（松江市）、ホッケー・錦織えみ（奥出雲町）、車いすテニス・三木拓也（出雲市）。

全選手とも、地元はもとより国民からの声援をエネルギーに変え、オリンピックという檜舞台で戦ってくれました。この日のために努力を続け、国民の期待やメダル獲得確実という重圧に押しつぶされそうになることもあったことと思います。

皆さん、お疲れ様でした。そして「感動」をありがとう。

### ◇全国高校総体（インターハイ）

今年度は中国地区で開催されました。島根県での開催競技は4競技で、柔道、テニス、体操・新体操、ボートでした。猛暑の中、本校の先生方も競技役員としてテニス競技会場で活躍いただきました。お疲れ様でした。

本県全体の競技成績は、陸上競技とテニスの2種目の優勝を含め12競技・27種目で入賞（8位以内）しました。おめでとう。

参考までに全国中学校体育大会の競技成績も紹介します。ソフトテニス、陸上競技、水泳（競泳）の3種目の優勝を含め8競技15種目で入賞しました。高校でも実力を発揮し活躍することを期待します。

### ◇日本一

宍道高校初の日本一。全国高校ゴルフ選手権大会女子個人の部（8月、山口県）で浜崎未来さん（通信制1年次）が優勝しました。おめでとう。

家族やゴルフ競技関係者の指導や支援のもと強い志をもって日々練習しています。大会の様子が9月中旬にTV放映(スカイA)されていたので観た人もいると思いますが、すごく落ち着いたプレーと正確なショットを解説者(プロ)が褒めていました。

10月には岩手県で開催される国民体育大会に、本県代表として出場しました。

#### ◇大相撲秋場所

9月11日～25日、国技館で開催された大相撲。前半の主役は郷土力士である隠岐の海(隠岐の島町出身)。7日目までに2横綱・3大関含む開幕6連勝。7日目に全勝優勝した豪栄道に敗れたものの破竹の6連勝でした。総評では前半戦の場所を面白くしたと評価され、千秋楽で9勝6敗となり初の殊勲賞を受賞しました。

10月27日に開催された秋巡業出雲場所(出雲ドーム)が凱旋となりました。

「感動」をありがとう。

#### ◇紹介

##### 【近代スポーツの父】

### 岸 清 一

(慶応3年7月4日生まれ、松江市雑賀町出身)

明治44年に嘉納治五郎(講道館柔道の創始者、柔道の父)によって日本体育協会が設立され、大正10年第2代会長に就任。大正13年から死去した昭和7年までIOC委員(国際オリンピック委員会)としてスポーツの普及と発展に努めた人物です。

日本のスポーツ振興等のために巨額の浄財を投じ、日本スポーツ界の拠点である岸記念会館(日本体育協会本部ビル、東京渋谷区)も本人の遺志によって建設されました。

これまでのスポーツ振興に尽くした功績を讃え、昭和10年に島根県庁前公園に銅像が建てられました。しかし、戦時中にその銅像はなくなってしまいます。昭和39年10月10日(後の体育の日)から24日まで東京オリンピックが開催されましたが、日本でのオリンピック開催を切望していた岸清一の偉業と言われ、同年、島根県庁公園に銅像が再建されたのです。

#### 編 | 集 | 後 | 記

隠岐スクーリングからの帰路、離れゆく隠岐の島々(緑)と航跡(白)、加えて空の色(青)のコントラストの美しさをフェリー甲板から楽しんでいる。秋の穏やかさを感じていると、突然冷たい風が頬を刺した。この海の色が濃紺へと変わる「冬が近いな」と感じるとともに、ふと思い浮かんだことがある。

この時期、出雲地方は「神在月」、出雲大社をメイン会場として出雲の諸神社で全国の神々は五穀豊穡・人々の縁結びなどの相談を行なうが、会議終了後、必ず立ち寄られる神社(万九千神社)がある。諸国へお戻りになる際、最後にこの神社で直会と呼ぶ酒宴を催され、翌年の再会を願いながらそれぞれの国へお帰りになる。万九千神社の周辺を地名で「神立(かんだち)」と称するのは、このことに由来するといわれている。

先ほどの冷たい風は出雲に向かう北の神々が寒さを引き連れ通過されたのだろうか? 12月初旬には、隠岐で学ぶ生徒たちとの再会のためにスクーリングに向かう。そのときには諸国に戻る神々の風に出会えるのだろうか? そんなことを想像しながら、海を見つめる自分がいた。

